

Ⅲ 基本的な考え方

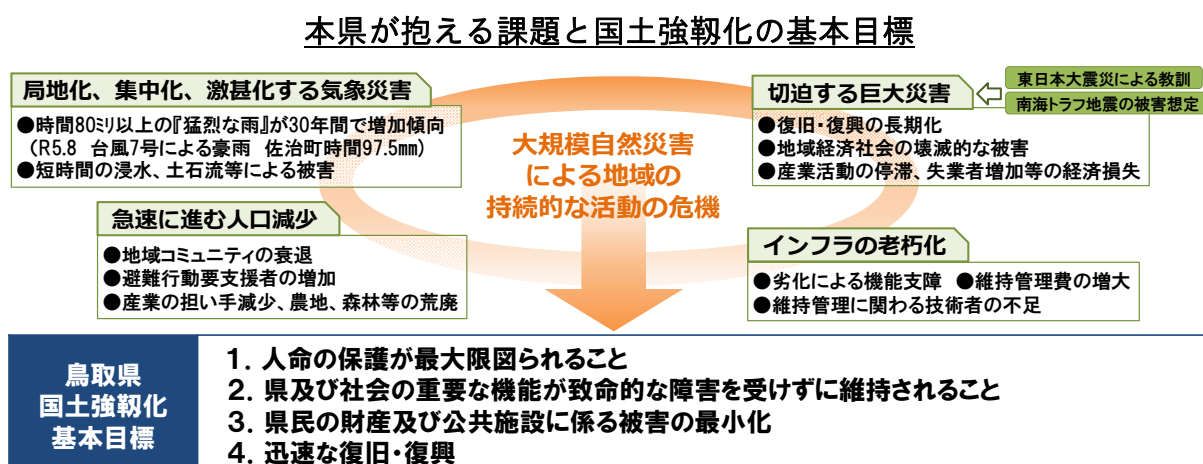
1. 国土強靱化の目標

(1) 国土強靱化の基本理念

本県の国土強靱化は、いかなる自然災害が起こっても、機能不全に陥る事が避けられるような「強さ」と「しなやかさ」を持った安全・安心な地域・経済社会を構築し、地域活性化と持続的な成長にも繋がる取組により「持続可能で強靱な鳥取づくり」を推進する。

(2) 基本目標

人口減少等の本県が抱える切迫する次の課題の中で、上記の基本理念の基に4つの目標による国土強靱化を実現しようとするものである。



(3) 事前に備えるべき目標

前記の基本目標を実現するための社会経済システムを構築する上で必要となる要件として、大規模自然災害の発生直後からの復旧・復興プロセスでの時間軸を考慮しながら、次の8つの事前に備えるべき目標を設定した。

[事前に備えるべき目標]

① 直接死を最大限防ぐ (人命の保護)	大規模自然災害が発生したときでも、直接死を最大限防ぐ
② 救助・救援、医療活動の迅速な対応、被災者等の健康・避難生活環境の確保による関連死の防止	大規模自然災害発生直後から、救助・救援、医療活動等が迅速に行われるとともに、被災者等の健康・避難生活環境を確実に確保することで関連死の発生を防ぐ
③ 行政機能の確保	大規模自然災害発生直後から、必要不可欠な行政機能は確保する
④ 情報通信機能の確保	大規模自然災害発生直後から、必要不可欠な情報通信機能は確保する
⑤ 地域経済活動の維持	大規模自然災害発生後であっても、経済活動を機能不全に陥らせない
⑥ ライフラインの確保及び早期復旧	大規模自然災害発生後であっても、生活・経済活動に必要最低限の電気、ガス、上下水道、燃料、交通ネットワーク等を確保するとともに、これらの早期復旧を図る
⑦ 二次災害の防止	制御不能な二次災害を発生させない
⑧ 迅速な復旧・従前より強靱な姿での復興	大規模自然災害発生後であっても、地域社会・経済が迅速にかつ従前より強靱な姿で再建・回復できる条件を整備する

[8つの目標の時間軸上の整理]

災害発生時	災害発生直後	復旧	復興
1. 直接死を最大限防ぐ (人命の保護)			
	2. 救助・救援、医療活動の迅速な対応、被災者等の健康・避難生活環境の確保による関連死の防止		
	3. 行政機能の確保		
	4. 情報通信機能の確保		
	5. 地域経済活動の維持		
	6. ライフラインの確保及び早期復旧		
		7. 二次災害の防止	
		8. 迅速な復旧・従前より強靱な姿での復興	

（４）国土強靱化を進める上での留意事項

鳥取県における人口減少、交通・物流のミッシングリンク等の特性・課題を踏まえ、国土強靱化に向けた取組を進めるうえで、留意する事項を以下に示す。

①地方創生と連携した相乗効果による強靱化の推進

人口減少は、様々な観点から脆弱性評価に影響を与えるものであり、国土強靱化と地方創生の取組は、施策の効果が平時・有事のいずれかを主な対象としているかといった点で相違はあるものの、双方とも、あらゆる困難を乗り越えていける確かな地域力を育み、強くしなやかな「輝く鳥取」の創造という共通の目的を有するものである。このため、輝く鳥取創造総合戦略と国土強靱化地域計画が調和した計画となり、相乗効果を発揮しながら「持続可能で強靱な県土づくり」の実現に向けて取組を推進する必要がある。

②ハード対策とソフト対策の適切な組み合わせ

気候変動に伴い激甚化・頻発化する大規模自然災害に対して、防災インフラ整備等のハード対策と、防災情報の伝達手段の多様化や要配慮者利用施設への避難支援等のソフト対策の両面から国土強靱化を推進し、県民の生命・財産・暮らしを守るための施策を講じる必要がある。

また、発災後の迅速な初動対応や避難生活の環境改善、災害現場を担う建設業従事者や、保健・医療・福祉支援者の負担軽減を図る必要がある。

③既存社会資本の有効活用による施策推進

これからのインフラ整備は、加速する老朽化による耐力低下、大規模自然災害の発生、社会的変化に伴う地域の実情などに対応しつつ、これまでに蓄えた既存ストックを最大限に活用しながら推進する必要がある。しかし、インフラの機能維持のための老朽化対策には、維持管理費や更新費等の莫大な予算が必要となることが懸念される。したがって、引き続き、鳥取県インフラ長寿命化計画（行動計画）に基づき、持続可能なストックの維持管理・更新を進めるとともに、メンテナンスのための新技術の開発・実装やメンテナンスを行う技術者の育成・確保も合わせて促進する必要がある。

④人材育成と官民連携等による効率的・効果的な施策推進

国土強靱化に向けた持続的な地域づくりは、地方公共団体のみならず、民間事業者、大学・研究機関、NPO、住民等多様な主体の参画の下に行われるべきものである。

特に、民間の資金、技術、ノウハウを活用して行われるPPP/PFI等は、施策を効率的・効果的に実施できるとともに、民間のビジネス機会の拡大にも繋がる。社会的ニーズ及び

技術シーズを見据え、大学・研究機関等と協力を図りながら、技術開発を含めた施策を推進する必要がある。

また、各地域における防災や産業の担い手の育成・確保を進め、官と民が連携して施策を推進させる必要がある。

⑤デジタル社会における新技術の活用と国土強靱化のイノベーション

少子高齢化や生産年齢人口の減少等を背景とする様々な地域課題があるなか、国土強靱化の推進を支えていくため、インフラ・防災・減災分野においても、地域DX（デジタル・トランスフォーメーション）の活用によるSociety5.0の実現に向けたデジタル技術の活用を加速させる。併せて、必要となるAI、IoT技術を扱う人材を育成していくための多様な施策を展開する。

⑥KPIによる定量的な施策評価とPDCAサイクルによるマネジメント

本計画は、本県の自然災害に対する政策評価を備えた強靱化システムとして構築しなければならない。したがって、本県の関係部局のみならず、市町村や民間事業者、県民との連携を図りながら作り上げるシステムを構築する必要がある。

また、持続可能な社会経済の成長に向け、KPI（重要業績指標）による定量的な評価に基づいて、PDCAサイクルとして概ね5年毎に本計画を見直し、強靱化システムの最適化を図っていくものとする。



IV リスクシナリオの設定

1. 想定する大規模自然災害

(1) 対象とする大規模自然災害

本計画の策定に当たり、想定する大規模自然災害は以下の方針とする。

- ◆国土強靱化基本計画と同様、大規模自然災害を対象とする。
⇒ 原子力事故やテロ等、自然災害以外のリスクは対象外
- ◆県内で発生しうるあらゆる大規模自然災害を想定する。
- ◆国全体の強靱化への貢献という観点から、周辺地域の支援が必要となる南海トラフ地震など、県外における大規模自然災害も対象とする。

■対象とした大規模自然災害

災 害	県内被害	県外被害	備考
令和3年7, 8月豪雨（県東部）	○	○	
令和5年1月豪雪（県西部）	○	○	
令和5年台風7号（県東中部）	○	○	
令和6年能登半島地震		○	
令和6年奥能登豪雨		○	

※その他、令和7年に発生した湯水（日野川流域）、埼玉県八潮市の下水道等に起因する大規模な道路陥没事故、岩手県大船渡市林野火災についても対象とする。

(2) 被害の想定となる本県の過去の災害

ア 地震による災害

本県における過去の主な地震災害を以下に示す。

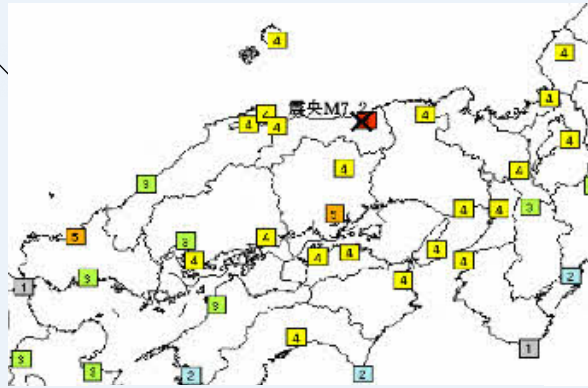
地震による災害の概要	
鳥取地震 昭和18年(1943年) 9月10日17時36分	(震源) 鳥取市付近 (地震規模) マグニチュード7.2 (死傷者) 死者1,083名、重傷者669名、軽傷者2,590名 (建物被害) 家屋全壊7,485棟、家屋半壊6,158棟 (その他) 火災による全焼家屋251棟
平成12年鳥取県西部地震 平成12年(2000年) 10月6日13時30分	(震源) 西伯郡西伯町～日野郡溝口町付近 (地震規模) マグニチュード7.3 (死傷者) 死者0名、負傷者141名 (建物被害) 住家全壊394棟、住家半壊2,494棟、一部破損14,134棟 (その他) 日吉津村、境港市及び米子市で液状化被害が発生
平成28年鳥取県中部地震 平成28年(2016年) 10月21日14時07分	(震源) 鳥取県中部、深さ11km (地震規模) マグニチュード6.6 (死傷者) 死者0名、負傷者25名 (建物被害) 住家全壊18棟、住家半壊312棟、一部破損15,078棟 (その他) 特定天井施設等の非構造部材の耐震化がされていない施設での被害 防災リーダーの主導による自主防災組織の有効性の再認識(防災リーダーの育成の推進が必要) 9市町48箇所の文化財が被災 ・国指定：重要文化財9、史跡7、名勝1、天然記念物1 ・国選定：伝統的建造物群1 ・県指定：保護文化財11、史跡1、名勝1 ・国登録：文化財(建造物)11、有形民俗文化財1 ・市町指定：文化財2、史跡2

鳥取地震

(1943年9月10日17時36分)



鳥取市内(詳地不明)の家屋の倒壊



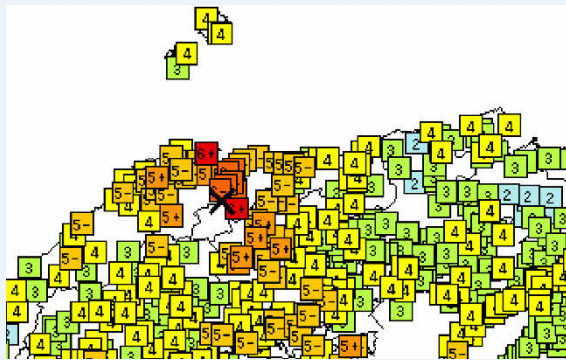
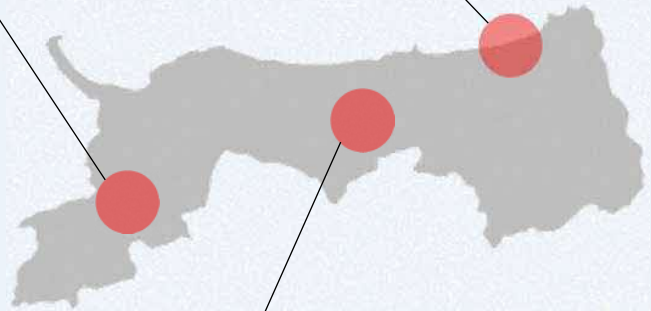
鳥取地震の震度分布図

平成12年鳥取県西部地震

(2000年10月6日13時30分)



西伯郡伯耆町宇代の落石



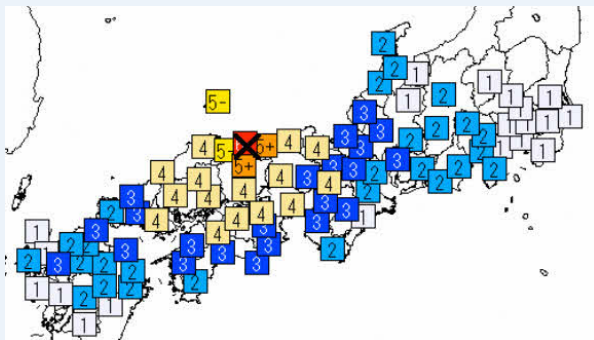
震度分布図(各観測点毎)

平成28年鳥取県中部地震

(2016年10月21日14時07分)



白壁土蔵群の建物被害



鳥取県中部地震の震度分布図



梨園の被害の様子

イ 豪雨による災害（水害、土砂災害）

本県で近年にもたらした主な豪雨による災害（浸水被害や土砂災害）を以下に列記する。

豪雨・暴風雨による災害の概要(1/5)	
昭和34年台風15号 （伊勢湾台風） （1959年9月25日～27日） 【降雨量】 平均2日雨量351.3mm （天神川小田上流域）	（概要）台風15号は超大型台風で強風と豪雨による被害は九州を除く全国各地に及んだ。特に伊勢湾岸地域では満潮と重なり高潮による被害が発生した。県内でも豪雨による河川氾濫や浸水などによる家屋流出等の被害を生じた。 （県内被害） ・人的被害：死者3名、重傷者4名、軽傷者14名 ・建物被害：家屋流出22棟、全壊13棟、半壊100棟 床上浸水2,669棟、床下浸水7,247棟、非住家2,188棟 （千代川、天神川、日野川、天神川水系加茂川、勝部川）
昭和36年台風18号 （第2室戸台風） （1961年9月15日）	（概要）台風18号は室戸岬に上陸し、その後兵庫県に再上陸、能登半島東部に達し、日本海に抜けた。県内でも豪雨による河川氾濫や浸水などによる家屋流出等の被害を生じた。 （県内被害） ・人的被害：死者3名、軽傷者5名 ・建物被害：全壊流出100棟、半壊957棟 床上浸水465棟、床下浸水1,192棟、非住家全壊流出826棟
昭和39年山陰北陸豪雨 （1964年7月17日～20日） 【降雨量】 総雨量477mm（米子） 日雨量207mm（米子） 時間雨量53mm（米子）	（概要）山陰地方と北陸地方では、梅雨前線により日降雨量が100mm～200mmの大雨に見舞われ、18日から19日には米子地方で集中豪雨が生じ、各河川が氾濫し、浸水・山崩れに被害が多く発生した。 （県内被害） ・人的被害：死者2名、軽傷者5名 ・建物被害：全壊4棟、半壊1棟、一部破損6棟 床上浸水671棟、床下浸水13,663棟、非住家8棟 （日野川、斐伊川水系加茂川、佐陀川）
昭和47年梅雨前線及び 台風6号、7号、9号 （1972年7月3日～15日） 【降雨量】 総雨量406mm（米子） 日雨量181.0mm（米子）	（概要）7月9日から13日にかけて梅雨前線が南下し、本州南岸から四国、九州北部に停滞した。また、台風6号、7号、8号の影響により前線が活発となり、各地で大雨による河川の氾濫等の被害が発生した。 （県内被害） ・人的被害：負傷者1名 ・建物被害：全壊1棟、半壊3棟、一部破損23棟 床上浸水400棟、床下浸水3,897棟 （日野川、斐伊川水系加茂川、塩見川、橋津川、勝部川、由良川）
昭和51年台風17号 （1976年9月8日～13日） 【降雨量】 総雨量432.5mm（鳥取） 時間雨量40.0mm（鳥取）	（概要）台風17号が長期間日本付近にあり、前線が関東から四国付近に停滞したため、全国的に大雨となり、九州から中部地方にかけて期間降水量500～1,000mmに達した。県内東部地域を中心に豪雨となった。 （県内被害） ・人的被害：死者2名、負傷者6名 ・建物被害：全壊2棟、半壊6棟、一部破損7棟 床上浸水569棟、床下浸水2,295棟 （千代川、八東川、大路川、斐伊川水系加茂川、塩見川、橋津川、勝部川、由良川）

豪雨・暴風雨による災害の概要(2/5)	
昭和54年台風20号 (1979年10月18日～19日) 【降雨量】 総雨量206.5mm (鳥取) " 342.0mm (智頭) " 243.5mm (若桜)	(概要) 台風20号により千代川流域で大雨になり、千代川の水位上昇に伴う内水被害が発生した。基準地点行徳において戦後最大の流量4,270m ³ /sが観測され、流域平均2日雨量は278ミリを記録した。 (県内被害) ・人的被害：死者2名、重傷者1名、軽傷者2名 ・建物被害：全壊4棟、半壊3棟、一部破損8棟 床上浸水538棟、床下浸水2,387棟 (千代川、日野川、蒲生川、橋津川、勝部川、由良川、佐陀川、湖山川) ・その他：田畑 流出埋没151ha、冠水3,915ha 道路破損522ヶ所、橋梁流出17ヶ所、堤防決壊540ヶ所
昭和62年台風19号 (1987年10月16日～17日) 【降雨量】 24時間雨量580mm (鹿野) 時間雨量78mm (倉吉)	(概要) 台風19号は大型の勢力で高知県室戸岬付近に上陸し、四国の東部を北北東に進んで、兵庫県明石市付近に再上陸し、若狭湾へ抜けた。その影響で県中部を中心に記録的な大雨をもたらした。 (県内被害) ・人的被害：死者4名、重傷者3名、軽傷者2名 ・建物被害：山がけ崩れによる住家の倒壊 全壊4棟、半壊12棟、一部破損33棟 床上浸水677棟、床下浸水1,516棟 (八東川、天神川水系加茂川、日野川、塩見川、橋津川、勝部川、由良川) ・その他：断水1,612戸
平成2年台風19号 (1990年9月18日～19日) 【降雨量】 総雨量521mm (岩井) 24時間雨量352mm (岩井) 時間雨量48mm (岩井)	(概要) 台風第19号は、16日には沖縄の南東で猛烈な強さになる。その後北東に進み、19日20時過ぎに強い勢力で和歌山県白浜町付近に上陸した。一方、11～15日に前線が本州上をゆっくり南下したため、県内でも雷や竜巻を伴った大雨となり浸水等の被害があった。 (県内被害) ・人的被害：死者1名 ・建物被害：全壊5棟、一部破損1棟 床上浸水206棟、床下浸水590棟、非住家7棟 (千代川、大路川、斐伊川水系加茂川、塩見川、蒲生川、橋津川、勝部川、由良川)
平成3年台風19号 (1991年9月27日～28日) 【風速】 日最大風速45.2m/s (米子管内)	(概要) 台風第19号は、9月27日16時過ぎ非常に強い勢力で長崎県佐世保市の南に上陸した。その後、加速しながら日本海を北東に進み、強い勢力で北海道渡島半島に再上陸し、28日千島近海で温帯低気圧に変わった。このため全国で、暴風により多数の死者、家屋の倒壊等があった。また青森県などで収穫前のリンゴの落果、西日本を中心に塩風による果樹等の枯死、全国で森林の倒木被害など農林水産業に甚大な被害があった。 (県内被害) ・人的被害：死者3名 ・建物被害：全壊2棟、半壊48棟、一部破損461棟 床上浸水1棟、床下浸水270棟、非住家270棟
平成10年台風10号 (1998年10月17日) 【降雨量】 総雨量143.0mm (鳥取) " 169.0mm (米子) 時間雨量40.5mm (鳥取) " 32.5mm (米子)	(概要) 台風第10号の影響により、日本付近に停滞した前線の活動が活発となり、広い範囲で大雨になった。そのため、県内各地で多量の降雨をもたらし、多くの河川で大洪水となった。 (県内被害) ・建物被害：全壊2棟、一部破損1棟、床上浸水40棟、床下浸水427棟 (千代川、湖山川、大路川、天神川、日野川、塩見川、勝部川、由良川) ・その他：三朝町で護岸崩壊、斜面崩壊、土石流が発生

豪雨・暴風雨による災害の概要(3/5)	
平成16年台風21号 (2004年9月29日) 【降雨量】 24時間雨量135mm (智頭町市瀬)	(概要) 台風21号接近による豪雨の中、智頭町市瀬地区で地すべりによる大規模な土砂崩落が発生した。土砂が千代川に流入し、川の流れがせき止められたことにより家屋が浸水被害に見舞われた。 (県内被害) ・人的被害：死者1名(鳥取市：川に水を見に出かけ行方不明、後日遺体発見)、重傷者1名、軽傷者6名 ・建物被害：一部破損2棟、床上浸水34棟、床下浸水118棟、非住家2棟(千代川、八東川、大路川、塩見川、蒲生川) ・その他：智頭町市瀬地区で、天然ダムによる浸水被害：床上浸水10戸、床下浸水1戸 JR因美線：浸水により不通
平成16年台風23号 (2004年10月20日～21日) 【降雨量】 3時間雨量135mm(鹿野)	(概要) 四国地方や大分県で500ミリを超えたほか、近畿北部や東海、甲信越地方で300ミリを超える大雨となった。19日未明から鳥取県西部地方で大雨をもたらした。 (県内被害) ・人的被害：死者1名、負傷者1名 ・建物被害：一部破損32棟、床上浸水43棟、床下浸水66棟、非住家16棟(千代川、日野川、塩見川、蒲生川、勝部川) ・その他：道路損壊108ヶ所、停電5万9365戸
平成18年7月豪雨 (2006年7月15日～19日) 【降雨量】 総雨量484mm(境港市境) “ 437mm(大山町塩津)	(概要) 梅雨前線が山陰沖から中国地方に停滞し活動が活発となり、本県で大雨となった。 (県内被害) ・建物被害：床上浸水9棟、床下浸水87棟(日野川、塩見川) ・その他：道路破損179ヶ所、山崩れ48ヶ所
平成19年8月局地豪雨 (2007年8月22日) 【降雨量】 総雨量160mm(若桜) 時間雨量64mm(若桜) “ 90mm(八頭町)	(概要) 日本海に伸びる寒冷前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定となり、若桜町や八頭町で局地的な大雨となった。 (県内被害) ・建物被害：半壊2棟、床上浸水4棟、床下浸水84棟、非住家3棟 ・その他：河川被害4箇所、道路被害1箇所
平成19年9月局地豪雨 (2007年9月4日) 【降雨量】 時間雨量57mm(西塩津) “ 100mm以上 (琴浦町付近)	(概要) 西日本に暖かく湿った空気が流れ込み、また、上空の寒気の影響が重なって、大気の状態が非常に不安定となり、琴浦町や大山町で局地的な大雨となった。 (県内被害) ・人的被害：重傷者1名 ・建物被害：全壊1棟、床上浸水8棟、床下浸水72棟、非住家1棟 ・その他：河川被害3箇所、道路損壊8箇所、土砂崩れ5箇所
平成23年台風12号 (2011年9月1日～4日) 【降雨量】 総雨量938.5mm (大山町大山) “ 555.5mm (鳥取市鹿野) 時間雨量63.0mm (大山町大山)	(概要) 台風12号は日本の南海上をゆっくりと北上し、強い勢力を保ったまま高知県東部に上陸、その後もゆっくりと北上し岡山県南部に再上陸、中国地方を北上して鳥取県を通過し山陰沖に抜けた。この台風を取り巻く雨雲や湿った空気が流れ込んだため、県内で大雨となった。 (県内被害) ・建物被害：全壊1棟、一部破損18棟 床上浸水17棟、床下浸水138棟、非住家20棟 (日野川、橋津川、佐陀川) ・孤立集落：米子市本宮20世帯、日野町三土11世帯 ・その他：断水10地区、飲用制限2地区

豪雨・暴風雨による災害の概要(4/5)

<p>平成30年7月豪雨 (2018年7月5日～7日)</p> <p>【降雨量】 総雨量: 476.5mm (智頭町奥本) (7月5日1時から7月7日まで) 時間雨量: 52.0mm (智頭町奥本)</p> <p>※降り始めからの総雨量 (7月3日 0時～9日10時): 智頭町508.5 mm</p>	<p>(概要) 6月29日9時に日本の南で発生した台風第7号は、7月3日夜対馬市付近を北北東へ進み、4日3時には萩市の北北西約140キロに達した。台風は同日15時に日本海中部で温帯低気圧に変わったが、梅雨前線が西日本に停滞し、また、暖かく湿った空気が流れ込んだため、鳥取県では4日未明から7日にかけて大雨となり、大雨特別警報が発表された。</p> <p>(県内被害)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人的被害: なし ・ 建物被害: 全壊: なし、半壊: なし、一部損壊: 3棟、 床上浸水: 12棟、床下浸水: 57棟 (千代川、清水川、塩見川、江川) ・ その他: 河川被害168箇所、砂防被害92箇所、道路被害51箇所、土砂崩れ等18件 ・ 避難指示 (緊急)、避難勧告の発令を行ったが、避難指示 (緊急) (教訓) ・ 避難勧告が発令された市町全体の避難率は約0.7% (大雨特別警報が発令された市町に限れば約0.9%) と低く、自分は大丈夫だという思い込み (正常性バイアス) が働き、避難行動に繋がらなかったことも考えられる。
<p>平成30年台風24号 (2018年9月29日～10月1日)</p> <p>【降雨量】 総雨量: 389.5mm (鳥取市鹿野) 時間雨量: 44.0mm (鳥取市青谷)</p>	<p>(概要) 台風第24号は、「非常に強い」勢力を保ったまま30日20時頃に和歌山県田辺市付近に上陸した。その後も北東に進み、10月1日12時に日本の東海上で温帯低気圧に変わった。</p> <p>9月29日1時から10月1日6時までの総降水量は、鳥取市鹿野で389.5ミリ、この期間の最大1時間降水量は、鳥取市青谷で44.0ミリを観測した。なお、県内4箇所の日降水量の年間の1位を更新した。風については、鳥取空港で北の風24.7メートル (30日20時13分) の最大瞬間風速、北東の風20.3メートル (30日16時44分) の最大風速を観測した。</p> <p>(県内被害)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人的被害: 琴浦町で死者1名 (農道の陥没箇所に車が転落)、 重傷者2名、軽傷者1名 ・ 建物被害: 全壊: なし、半壊: なし、一部損壊: 3棟、 床上浸水: 16棟、床下浸水: 131棟 (露谷川) ・ その他: 河川被害89箇所、砂防被害27箇所、道路被害58箇所、土砂崩れ等40件
<p>令和元年台風19号 (令和元年東日本台風) (2019年10月10日～13日)</p> <p>【降雨量】 総雨量: 181.5mm (鳥取市鹿野)</p>	<p>(概要) 台風第19号は、10月6日3時に南鳥島近海で発生し、急速に発達しながら小笠原諸島へ進み、その後、日本の南海上を北上し本州へ接近し、強い勢力を保ったまま12日19時前に静岡県伊豆半島に上陸した。</p> <p>鳥取県では、強風により転倒するなどして負傷者が出たほか、住家の一部破損、鉄道の運休や航空便の欠航、停電、農作物への被害などが発生した。</p> <p>(県内被害)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人的被害: 軽傷者1名 ・ 建物被害: 全壊: なし、半壊: なし、一部損壊: 3棟、 床上浸水: 0棟、床下浸水: 0棟 ・ その他: 道路被害1箇所、停電の発生23,130戸 (高圧線の断線、樹木等の接触、雨風による故障等)

豪雨・暴風雨による災害の概要(5/5)

<p>令和2年9月豪雨 (2020年9月25日～27日)</p> <p>【降雨量】 総雨量: 301.0mm (鳥取市佐治) 時間雨量: 69.0mm (鳥取市佐治)</p>	<p>(概要) 鳥取県では、25日から27日にかけて気圧の谷や湿った空気の影響で断続的に雨の降る天気となった。26日は、気圧の谷が通過した昼過ぎから夕方にかけて大気の状態が非常に不安定となり、解析雨量によれば、26日15時20分までの1時間で、三朝町付近で約100ミリの雨が降った。また、鳥取市河原町・佐治町などで記録的短期間大雨情報が出された。</p> <p>鳥取市や三朝町などで土砂流出や崩落などによる道路の通行止め、鳥取市佐治町で土砂流入などによる工場の一部損壊が発生した。</p> <p>(県内被害)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人的被害：なし ・住家被害：なし、非住家被害：1棟 ・その他：道路被害6箇所、河川被害7箇所、農業用水路被害1箇所、林道被害3路線3箇所、菌床きのこ施設（鳥取市佐治町）の浸水・土砂流入等被害（土石・流木による河道埋塞に伴う流水の越水）
<p>令和3年7月豪雨 (2021年7月1日～13日)</p> <p>【降水量】 総雨量: 470.5mm (鳥取市鹿野)</p>	<p>(概要) 梅雨前線が、6月末から7月上旬にかけて西日本から東日本に停滞した。梅雨前線に向かって暖かく湿った空気が次々と流れ込み、大気の状態が不安定となったため、西日本から東北地方の広い範囲で大雨となった。</p> <p>7月3日にかけて、梅雨前線は本州南岸に停滞した。7月1日には伊豆諸島で線状降水帯が発生し、日降水量が300ミリを超える大雨となった。7月2日から3日にかけては、東海地方から関東地方南部を中心に断続的に雨が降り、静岡県複数の地点で72時間降水量の観測史上1位の値を更新するなど記録的な大雨となった。</p> <p>7月4日以降、梅雨前線は次第に北上し西日本から東日本の日本海側でも雨となった。特に7月7日は、中国地方の日本海側で線状降水帯が発生し、日降水量が300ミリを超える大雨となった。7月8日は、広島県を中心に日降水量が200ミリを超える大雨となった。</p> <p>7月9日夜から10日にかけては、九州南部を中心に雷を伴い猛烈な雨や非常に激しい雨が断続的に降り、9日からの総雨量が鹿児島県さつま町で500ミリを超える記録的な大雨となった。このため、10日5時30分に鹿児島県、5時55分に宮崎県、6時10分に熊本県に大雨特別警報が発表された。7月12日は全国的に広く大雨となり、青森県、三重県、島根県や鳥取県で1時間降水量の観測史上1位の値を更新するなど記録的な大雨となった。</p> <p>(県内被害)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人的被害：重傷者：1名、軽傷者：3名 ・住家被害：一部損壊：2棟、床上浸水：22棟、床下浸水：219棟 ・その他：ため池決壊、断水、放送機器障害、土砂災害、河川被害、道路被害、文教施設被害、農林水産物及び畜産被害

豪雨・暴風雨による災害の概要(5/5)

<p>令和3年8月豪雨 (2021年8月11日～19日) 【降水量】 連続雨量: 328mm (鳥取市樟原 (用瀬町))</p>	<p>(概要) 8月11日から19日にかけて、日本付近に停滞している前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、前線の活動が活発となった影響で、西日本から東日本の広い範囲で大雨となり、総降水量が多いところで1,200ミリを超える記録的な大雨となった。</p> <p>8月12日は、九州北部地方で線状降水帯が発生し、24時間降水量が多いところで400ミリを超える大雨となった。</p> <p>8月13日は、中国地方で線状降水帯が発生し、複数の地点で24時間降水量が8月の値の1位を更新するなど、記録的な大雨となった。</p> <p>この大雨に対して、広島県広島市を対象とした大雨特別警報が発表された。</p> <p>8月14日は、西日本から東日本の広い範囲で大雨となった。特に九州北部地方で線状降水帯による猛烈な雨や非常に激しい雨が降り続き、佐賀県嬉野市で24時間降水量555.5ミリを観測し、観測史上1位の値を更新するなど記録的な大雨となった。</p> <p>この大雨に対して、佐賀県、長崎県、福岡県、広島県を対象とした大雨特別警報が発表された。</p> <p>その後、西日本から東日本の太平洋側を中心に広い範囲で雨となり、日降水量が多いところで200ミリを超える大雨となった。</p> <p>これらの大雨により、全国各地で土砂災害や河川の増水や氾濫、低地の浸水による被害が発生した。また、大気の状態が非常に不安定となり、岐阜県加茂郡八百津町では竜巻による被害も発生した。</p> <p>(県内被害) 大きな被害はなし</p>
<p>令和5年台風7号 (2023年8月14日～17日) 【降雨量(14日12時～17日16時)】 総雨量: 676mm (三朝町中津) 627mm (鳥取市佐治)</p>	<p>(概要) 台風7号は、8月8日9時に南鳥島近海で発生し、8月15日5時前に和歌山県潮岬付近に上陸、その後近畿地方を北西に進み、13時頃には兵庫県明石市付近に再上陸した。再上陸後は兵庫県を北上し20時頃には豊岡市付近から日本海に抜けて北東に進んだ。台風の通過や台風周辺の暖かく湿った空気が流れ込んだため、近畿地方や中国地方を中心に記録的な大雨となった。15日は鳥取県と岡山県に線状降水帯が発生し、鳥取県では大雨特別警報が発表された。</p> <p>この期間、鳥取県鳥取市佐治では日降水量が年間の極値を更新した。</p> <p>これにより、特に佐治川流域を中心に災害や孤立集落が集中的に発生し、佐治川ダムでは昭和47年(1972年)の竣工以来初めてとなる緊急放流を行った。</p> <p>(県内被害)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人的被害：なし ・住家被害：全壊1棟、半壊2棟、床上浸水11棟、床下浸水72棟 ・その他：河川被害288件、砂防被害47件、道路被害103件、港湾被害4件

昭和 62 年台風第 19 号

(1987 年 10 月 16 日～17 日)



湯梨浜町旧東郷町役場付近の冠水状況



湯梨浜町方地の斜面崩壊

昭和 54 年台風第 20 号

(1979 年 10 月 18 日～19 日)



鳥取市吉成(大路川)の浸水状況



鳥取市吉成(大路川)の浸水状況



米子市

琴浦町
上中村

湯梨浜町
方地

鳥取市

若桜町

平成 19 年 8 月局地豪雨

(2007 年 8 月 22 日)



若桜町寺所(角谷川)の被災状況

平成 23 年台風 12 号

(2011 年 9 月 1 日～4 日)



米子市河岡(佐陀川)の被災状況

平成 19 年 9 月局地豪雨

(2007 年 9 月 4 日)



琴浦町上中村の被災状況



米子市青木(小松谷川)の冠水状況

平成 30 年台風 24 号

(2018 年 9 月 29 日～10 月 1 日)



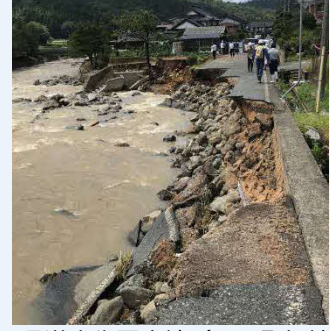
国道 180 号 (日野町濁谷)
の被災状況

令和 5 年台風 7 号

(2023 年 8 月 14 日～17 日)



国道 482 号 (鳥取市用瀬町別府)
の被災状況



県道麻生国府線 (八頭町福地)
の被災状況



天神川 (三朝町久原)
の被災状況

令和 3 年 7、8 月豪雨

(2021 年 7 月 1 日～13 日)
(2021 年 8 月 11 日～19 日)



県道鳥取鹿野倉吉線
(三朝町吉原)
の被災状況

平成 30 年 7 月豪雨

(2018 年 7 月 5 日～7 日)



国道 373 号 (智頭町南方)
の被災状況



国道 373 号 (智頭町福原)
の被災状況

ウ 豪雪・暴風雪による災害

本県で近年にもたらした主な豪雪による被害を以下に列記する。

豪雪・暴風雪による災害の概要	
昭和59年豪雪 (1983年12月 ～1984年3月)	<p>(概要) 昭和58年11月19日より降り出した雪は、翌年3月上旬まで続き、3月20日時点の累計積雪深は、若桜町春米で16.7m、用瀬町江波で9.2m、三朝町三徳で8.5m、鳥取市で5.5m、倉吉市で3.3mとなった</p> <p>(県内被害)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人的被害：死者1名、重傷15人、軽傷11人 ・住家被害：全半壊12棟、一部破損655棟、浸水48棟 ・非住家被害：公共建物48棟、その他592棟
平成18年豪雪 (2005年12月 ～2006年1月)	<p>(概要) 平成17年12月から平成18年1月の上旬にかけて、強い冬型の気圧配置が続き、積雪量も多くなった。</p> <p>(積雪量) 大山最深積雪244センチ</p> <p>(県内被害)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人的被害：死者3名、負傷者6名 ※1月の中旬には低気圧が日本の南岸を通過したため、気温が上昇し、まとまった雨が降って雪解けが進み、屋根からの落雪や除雪作業中の事故が発生 ・建物被害：住家一部破損76棟、非住家被害53棟
平成23年(2011年) 豪雪 (2010年12月31日 ～2011年1月1日)	<p>(概要) 1月1日に米子で観測開始以来の最深積雪、89センチを観測したほか、鳥取県中・西部の平野部を中心に記録的な大雪となった。</p> <p>(県内被害)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人的被害：死者6名 ※江府町奥大山のスキー場でなだれによる4名 ※大山町内で自宅の雪ずりによる1名 ※郡家町内で除雪中に川への転落による1名 ・交通：鳥取県の国道9号でおよそ1,000台の車が立往生 ・電気：送電線鉄塔の損傷4基、送電線の電線断線16箇所被害により、13万戸が停電
平成28年(2016年) 豪雪 (2016年1月23日 ～2016年1月25日)	<p>(概要) 強い冬型の気圧配置に伴う寒波によって、1月24日に鳥取市では約25年ぶりに1月の真冬日になったほか、県各地で記録的な低温となった。</p> <p>(県内被害)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人的被害：死者2名 ※日南町内で牛舎雪下ろし中の転落による1名 ※日南町内で自宅裏水路決壊による土砂流入による1名 ・水道：管破損多発による配水池の水位低下等により、2市4町の約7万5千戸で断水、出水不良が発生。

豪雪・暴風雪による災害の概要	
平成29年(2017年) 豪雪 (2017年1月22日 ～2017年1月24日)	<p>(概要) 強い冬型の気圧配置に伴い寒気が流れ込み、県内では1月22日から次第に雪が降り、1月24日にかけて大雪となった。</p> <p>(積雪量) 最深積雪 大山241センチ 智頭111センチ</p> <p>(県内被害)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人的被害：死者1名 ※歩道除雪作業中に先導者が転倒して除雪機に巻き込まれる1名 ・交通：国道373号(智頭町)等で約600台の車が立往生
平成29年(2017年) 豪雪 (2017年2月9日 ～2017年2月12日)	<p>(概要) 冬型の気圧配置が強まり、寒気が流れ込み、県内では9日から次第に雪が降り始め、10日からは県内の広い範囲で強い雪が降った。この期間の最深積雪は、鳥取市吉方で91センチ、倉吉市大塚で61センチを観測するなど、県内で記録的な大雪となった。</p> <p>(積雪量) 最深積雪 鳥取市91センチ、倉吉市61センチ</p> <p>(県内被害)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人的被害：死者2名 ※トラック運転者が脱出のため毛布を敷こうとした際、毛布ごと後輪に巻き込まれる1名 ※八頭町内で屋根の上の雪の除雪中に転落1名 ・交通：国道180号,181号付近、国道9号、山陰道等で立往生が発生 ：JR山陰線の列車が立往生し、乗客23人が約22時間車内で足止め
令和2年(2020年) 豪雪 (2020年12月14日 ～2020年12月17日)	<p>(概要) 冬型の気圧配置が持続し、平年よりも強い下層寒気が停滞する一方で、日本海は平年よりも約2℃暖かく、水蒸気量が豊富な状況であったことから、日本海側を中心に断続的な降雪が続いた。山陰では、海上から雨雲が次々と流れ込み、断続的に雨や雪が降り続いた。降水量は沿岸部を中心に多くなり、15日21時までの48時間解析雨量は県内の多いところで150ミリを超えた。</p> <p>倒木・電柱倒壊による道路の通行止めが多数発生している理由は、水分を多く含んだ雪質だったことが原因と考えられる。</p> <p>(積雪量) 最深積雪 若桜49センチ(倒木等発生地付近)</p> <p>(県内被害)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人的被害：なし ・非住家被害：倉庫1棟倒壊 ・交通：県道若桜湯村温泉線、県道岩美八東線、町道明辺線等で倒木・電柱倒壊等による全面通行止めが発生 ：JR山陰線居組駅～東浜駅間で列車が4時間立往生した ・孤立集落：最大26世帯37人が孤立(倒木・電柱倒壊等による) ・電気：設備への樹木等の接触や降雪による設備の故障により1万6千戸が停電 <p>(教訓)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倒木による道路の通行止めを踏まえ、事前伐採や倒木危険個所の点検等を実施。

豪雪・暴風雪による災害の概要	
令和5年1月豪雪 (2023年1月20日～1月31日)	<p>(概要) 1月24日から25日にかけて、日本の上空にこの冬一番の強い寒気が流入し、日本付近は強い冬型の気圧配置となった。</p> <p>25日にかけて、西日本から北陸地方を中心に大雪となり、京都市など普段雪の少ない地域でも積雪となった。中国地方では24日夜に短い時間に積雪が急激に増え、嚴重な警戒を呼び掛けた。25日の最低気温は南西諸島を除き全国的に氷点下となり、広い範囲で過去10年の最低気温に近い冷え込みとなった。南西諸島から東日本を中心に広い範囲でこれまでの1月の記録を超える風が吹いた。26日朝も、最低気温は南西諸島を除き全国的に氷点下となり、東日本・西日本の複数地点でこれまでの1月の記録を更新した。</p> <p>(県内被害) 最深積雪 167センチ (大山町大山)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人的被害：軽傷者：1名 ・住家被害：一部損壊：1棟、床下浸水：3棟 ・停電、断水、大雪による通行止め、文教施設被害

昭和 59 年(1984 年)豪雪

(1983 年 12 月～1984 年 3 月)



除雪の状況 (鳥取市内)



雪の重みで全壊した成器小学校体育館
(鳥取市国府町)

平成 23 年(2011 年)の豪雪

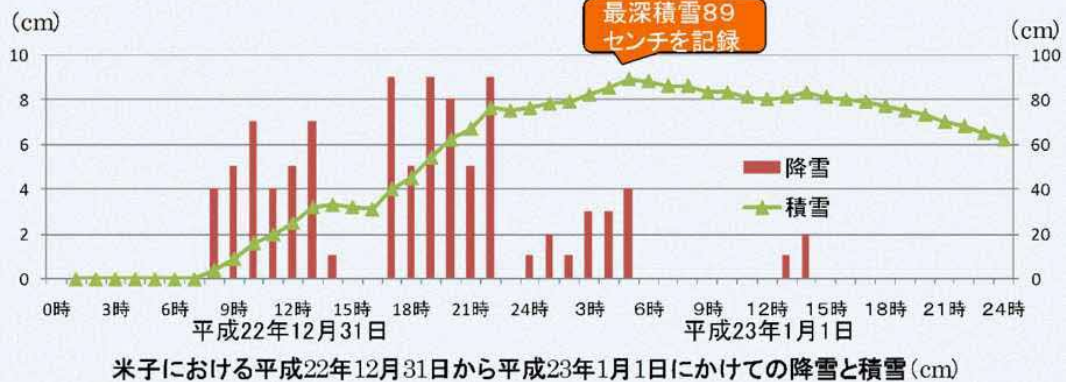
(2010 年 12 月 31 日～2011 年 1 月 1 日)



被害を受けた漁船(提供:境海上保安部)

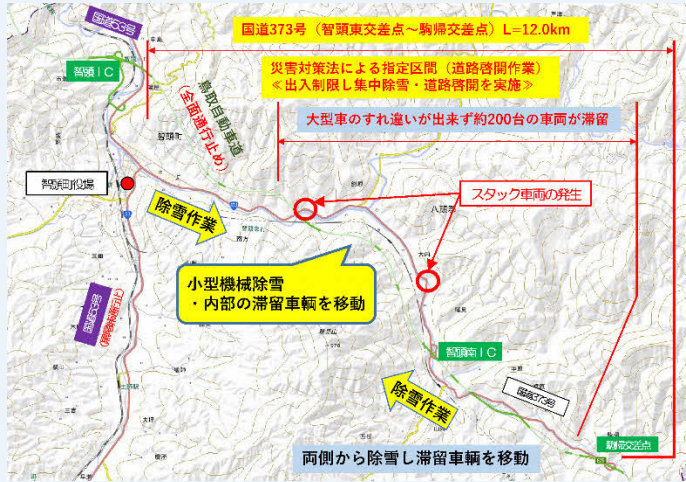


国道 9 号の渋滞状況(提供:大山町)

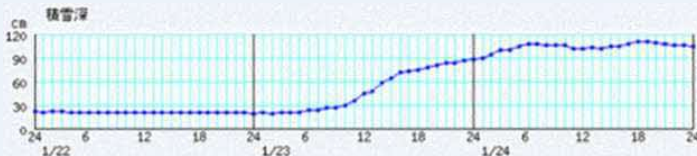


平成 29 年(2017 年)豪雪

(2017 年 1 月 22 日～24 日)



立ち往生車両の解消・道路の復旧に向けた作業状況
(国土地理院の電子地形図に追記を行い作成)



智頭町における 1 月 22 日から 24 日にかけての積雪深※



智頭町での立ち往生による渋滞



国道 373 号(智頭町大内地内)の除雪状況

(2017 年 2 月 9 日～12 日)



国道 9 号における除雪状況

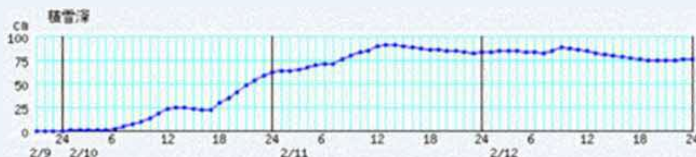


スタック車両の撤去状況



- 大雪による規制 (全面通行止)
- ① 山陰道 (八束水交差点～はわいIC) 約13時間
 - 国道9号 (八束水交差点～原交差点) 約23時間
 - ② 米子自動車道 (久世IC～米子IC) 約56時間
 - ③ 鳥取自動車道 (河原IC～鳥取西IC) 約 6時間

高規格幹線道路における
通行規制箇所



鳥取市における 2 月 9 日から 12 日にかけての積雪深※



転覆した漁船 (鳥取市)

※出典：鳥取地方気象台ホームページ

令和2年(2020年)豪雪

(2020年12月14日～17日)



倒木による通行止め
(八頭町明辺)



倒木による通行止め
(八頭町姫路)



電柱倒壊の状況
(八頭町姫路)



電柱倒壊の状況 (若桜町来見野)



復旧作業の状況 (若桜町来見野)



主な箇所の12月14日から17日にかけての積雪深の推移